

GRANTIA

補助金×AI導入 活用ガイド 2026年版

「知らずに自腹」をなくすための実務資料

株式会社VERTEX Technologies | GRANTIA(グランティア)

1. 2026年に使える主な制度 早見表

制度	補助上限	補助率	AI関連の対象例
デジタル化・AI導入補助金2026(旧IT導入補助金)	350万円	1/2～4/5	AIツール・クラウド利用料(最大2年)・導入設定/研修費
ものづくり補助金	数百万～	1/2前後	AI検品・生産管理システム等の設備的導入
小規模事業者持続化補助金	50～200万円	2/3	販路開拓に伴うAI活用(EC・広告運用等)
人材開発支援助成金(リスキリングコース)	経費の最大75%	-	業務直結型のAI研修(2026年8月改正で汎用研修は対象外)

※2026年8月時点の公開情報に基づく概要です。制度は年度・公募回で変わります。受給可否・金額を保証するものではありません。

2. どのAI投資が「通りやすい」か

採択されやすいのは「業務課題→数値目標→AIでの解決手段」が一直線に説明できる計画です。例: 見積作成の工数を月40時間→10時間に削減するAI見積システム、電話対応の一次応答自動化、検品不良率の改善など。逆に「とりあえずChatGPTを入れたい」のような汎用導入は根拠不足で不採択になりがちです。

3. 申請の流れと落とし穴

ステップ	期間目安	落とし穴
① 制度選定・要件確認	1週間	公募スケジュールを逃す
② 事業計画・申請書類作成	2～4週間	数値目標の根拠不足
③ 申請→採択発表	1～3ヶ月	交付決定前の発注・契約はNG(対象外になる)
④ 導入実施→実績報告	数ヶ月	証憑(見積・請求・振込)の不備

4. よくある不採択理由トップ3

① 導入目的が抽象的(「業務効率化」だけで数値なし) ② 費用対効果の説明不足 ③ 加点項目(賃上げ表明・事業計画の具体性等)の取りこぼし。GRANTIAでは診断時にこの3点を先に潰します。

5. GRANTIAの支援内容

60秒無料診断 → 業種・従業員数・投資予定から使える可能性のある制度をリストアップ
申請支援(提携の認定支援機関・専門家と連携) → 着手金200,000円+成果報酬(補助額の15%)
AI導入実装 → 50～200万円(実装費自体が補助対象になり得ます)
運用定着 → 月次サポート(任意)

申請だけで終わらせず、AIの導入・定着まで同じ窓口で完結するのがGRANTIAの特長です。

